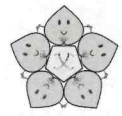


桃五だより



No.570

(12月号)

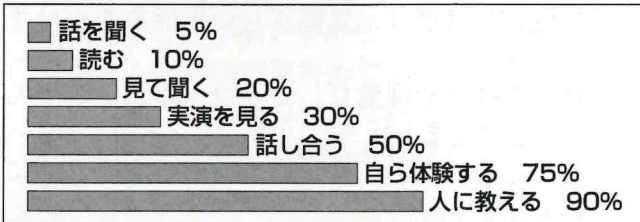
杉並区立桃井第五小学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/momo5shou/>

2018. 11. 30

長い目

校長 川田 忠



上記の表は、ラーニングピラミッドと言われるもので、学び方による平均学習定着率を表しています。話を聞くこと中心の講義型の学び方では、学習定着は5%。読書による学び方だと10%。一方で、話し合いによる学び方になると50%の学習定着となり、誰かに教える場がある学び方では、90%の定着がなされる。アメリカ国立訓練研究所が発表したものです。

学習指導の中で、教師が話をして学ばせる場は欠かせません。子供たちにとって未知なることを身につけていくのが学習である以上、学ぶ内容や意味、学び方、学んだことの使い方等、初めてのことに対する指導は教師が話していくこととなります。

ただ、これまでの教育の中で、講義型の学習場面が多かったのも事実です。教師が話して伝えることは、教室生活の中心をなしていました。そうした学習の定着率が5%しかない。これは変えていかなくてはなりません。

平成32年度から完全実施となる新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。ラーニングピラミッドでいうと、「話し合う」「自ら体験する」「人に教える」という場を増やし、生きる力を身につけていくための学習を展開していこうとするものです。本校でも、理科・生活科を通して対話的な活動を大事にした授業を創るために研究を重ねています。

学校として向かっていく姿は見えている中で、学習の定着を高める学び方をするには、時間をかける必要があります。これが問題。教師が伝えれば短い時間で済むことを、子供同士で話し合えば時間はかかる。学習指導は限りある時間の中で計画されているので、かけてよい時

間内で定着のよい学び方を展開していくことを、学校は挑戦していくことになります。

そういったこれからの学習を創り出すために、教師の構えとして、子供たちの学びを見守る長い目が必要なのでしょう。子供が活動し、子供が学びを獲得していく十分な時間を与える。教師が大切なことを伝えるだけでなく、子供自身が仲間と共に学び取っていくのを待つ。教師として、子供の学びの定着を確実にする指導スタイルの確立が求められています。

そしてこの話は、学校における学習場面だけでないように私は思っています。各家庭における子育ての中でも、当てはまることがあるのでしょう。

生活面の課題の改善を図りたいときに、親は子供たちに何度も同じ話をすることがあります。子供たちは親の話を聞いて返事をしますが、一向に改善しない。「何度言ったらわかるんだらうね」と親が嘆く姿は、どの家庭でも見られる様子ではないでしょうか。

話を聞いて学ばせることは、やはりなかなか定着しない。だとすると、子育ての中にもラーニングピラミッドを活用したらどうなるのでしょうか。例えば、親は話すだけでなく手本を見せる。子供自身が考えたり体験したりするように仕向ける。子供と親が本気で話し合う場をつくる。そういった工夫を積み重ねることで、子供が自立した人に変容する日が近くなっていくように思えます。

ここでも、肝となるのは長い目なのでしょう。そうそうすぐに結果は出ないかもしれないけれど、子供の成長した姿に思いを馳せ、子供自身が学びの主導権を握る時間をもつ子育てをしていく。遠回りをするようなやり方に見えても、やがては子供自身が自発的な生活習慣を身につけていくことになると思えてなりません。

子供たちを「手塩にかけて育てる」のが、この国の文化のはずです。子供を育てるといって楽しい楽しい営みに対して、学校も家庭も大人がひと工夫もふた工夫もすること、これからの時代を生きぬく、学んだことをきちんと蓄えたたくましい人間が育つように思います。

12月の生活指導目標
使った物の後始末を
きちんとして

- 自分の持ち物の整理整頓をしよう
- 給食のかたづけをきれいにしよう
- そうじ用具の使い方や後始末をしっかりしよう
- 遊びに使った物のかたづけをみんなですよう

使った物のかたづけや、持ち物の整理整頓はできていますか。「学習しよう」と思ったときに、「文具が見当たらない」「机の回りがかたづいていない」というような些細なことで学習意欲が低下してしまうことがあります。集中力をそらすことなく学習への意欲を持続させるためには、身の回りをきちんと整理整頓しておくことも大切です。ご家庭でも、学習道具の確認や整頓の声掛けをよろしく願います。